

(二)船場川 姫路競馬場 洪水調節池 だより

第1号
平成28年10月25日
兵庫県中播磨県民センター
姫路土木事務所

01 船場川で「洪水調節池整備事業」を進めています。

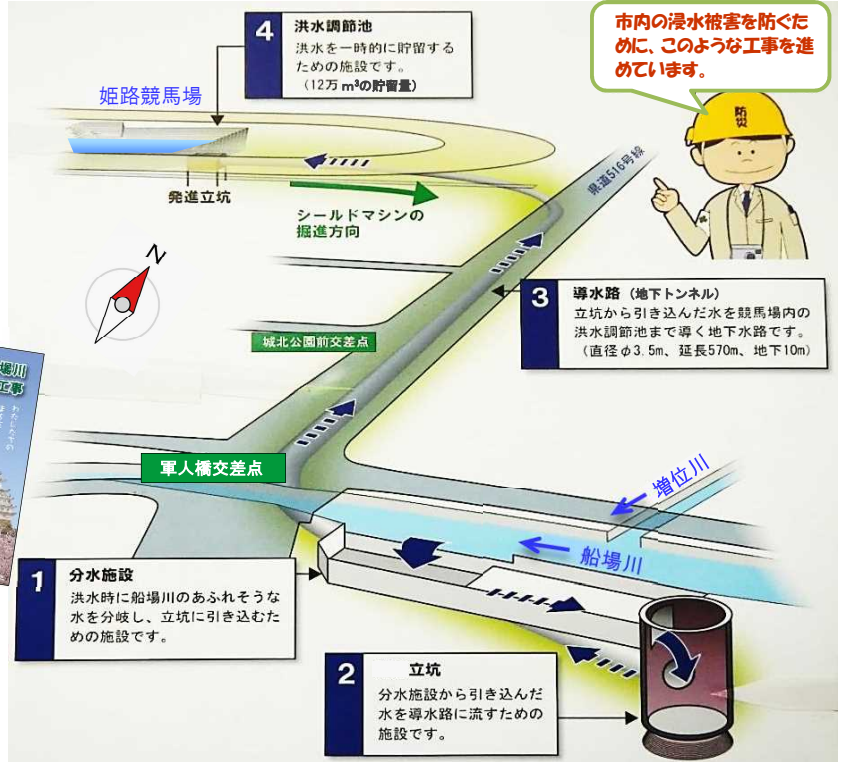
船場川は平成16年の台風23号の豪雨により溢れ、伊伝居地区をはじめ、市内で多くの浸水被害をもたらしました。

これらの再度災害を防止するため、洪水を一時的に貯留するための「洪水調節池」を姫路競馬場内に建設する事業を進めています。

この洪水調節池事業の完成は、平成30年の春を目標にしています。これにより、船場川の治水の安全度が高まります。



※詳しくは、調節池事業パンフレットをご覧ください。姫路土木事務所等で配布しています。



02 地下導水路(シールド)工事が始まります。

今月より、姫路競馬場内に建設する調節池に、船場川から洪水を引込むための「地下導水路トンネル」の工事に着手します。

この地下導水路は、直径4.0mの掘削機が地下約10mの地中をモグラのように掘り進んで地下に円筒形のトンネルをつくっていきます。

競馬場から船場川までは、約570mありますが、11月から2月までの約4ヶ月間で掘りあがります。競馬場東側の県道516号の地下を掘り進みますが、崩れないように地中を掘り進むので、車は地上の道路をいつも通りに走ることができます。このような建設方法を「シールド工法」といいます。

本格的に県道の真下を掘進するのは、年末から年始にかけてですが、皆さんがこの場所を通る時には、船場川の洪水被害を軽減するために、地下で作業員や機械が働いているんだな、と想像してみてください。



競馬場の内馬場から船場川に向かってトンネルを掘るための基地

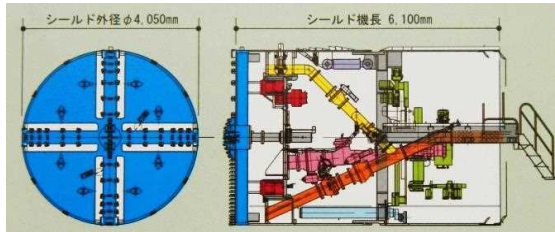


現場で組立てられた掘削マシン



地中を掘削する刃(ビット)

さて、シールドマシンがどのように地下トンネルをつくっていくのかについては、次号以降に解説したいと思います。



シールドマシンの設計図

それなあに? 今月の「工事現場から」

この設備は何でしょう。競馬場内の工事現場で非常に重要な役割を担っている掲示板です。



これは、安全掲示板と言います。毎朝、工事作業員さんが集まり、当日の作業内容や安全注意事項を確認し合って、工事に取りかかります。現場の無事故を支える大事な設備のひとつです。

■ 船場川のある風景 ■

「千姫の小径」は姫路城中濠と船場川の間へのびる土の道です。

モジヤ桜が植えられ、左右の水辺と共に、私たちの心を和ませてくれる散策路となっています。

